

広島県の職場における熱中症による死傷災害の発生状況

1 職場における熱中症による死傷者数の推移（平成26年～令和6年）

平成26年～令和6年の職場における熱中症による死亡者及び休業4日以上の上業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）をみると最少は3人で、最多は32人となっており、令和6年は23人であった。

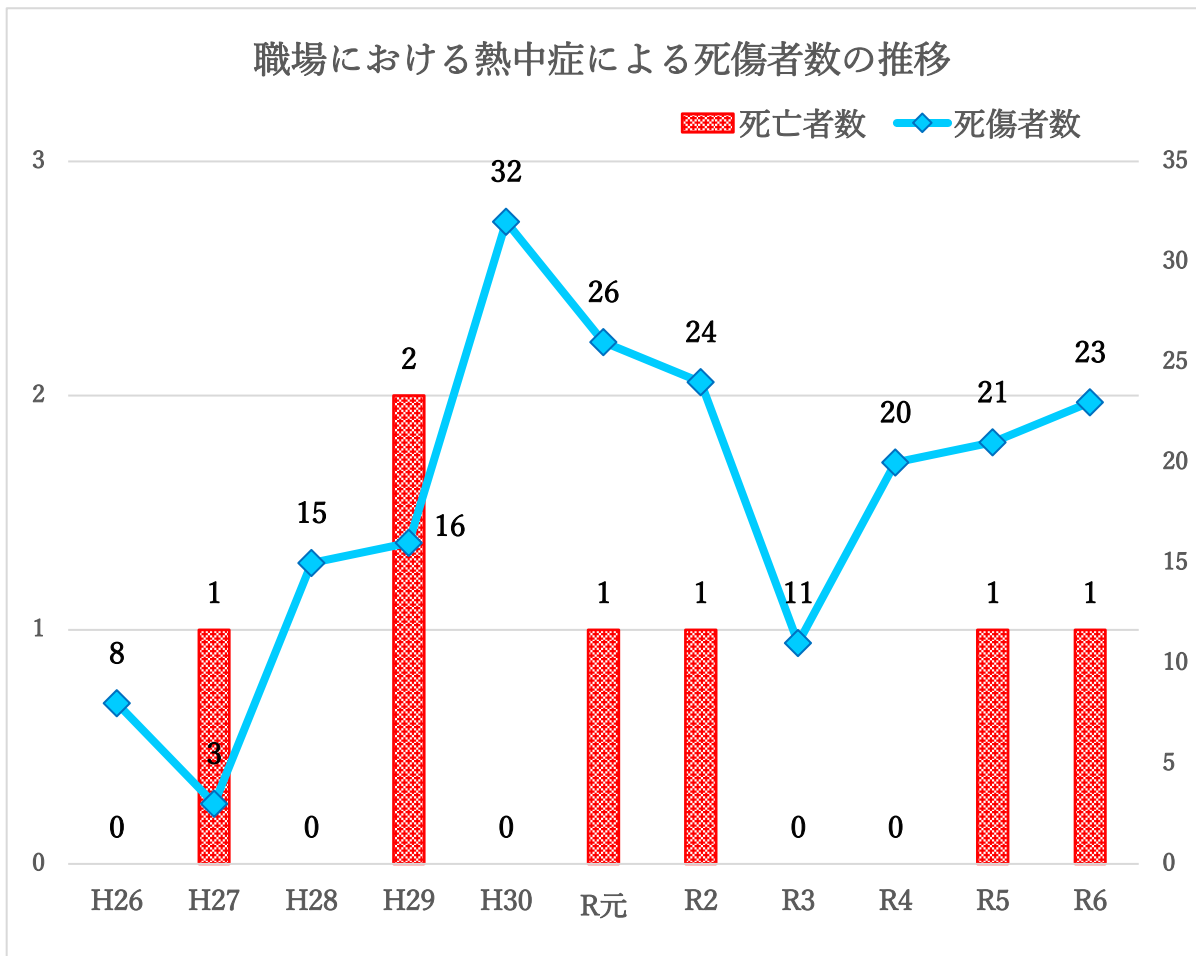
令和6年の死傷者数は、対前年比で2人の増加であった。

死亡者は1人で、建設業（土木工事業）で発生している。

➤ 職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
8	3	15	16	32	26	24	11	20	21	23
(0)	(1)	(0)	(2)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)

※（ ）は死亡者数で内数



2 業種別発生状況（平成 26 年～令和 6 年）

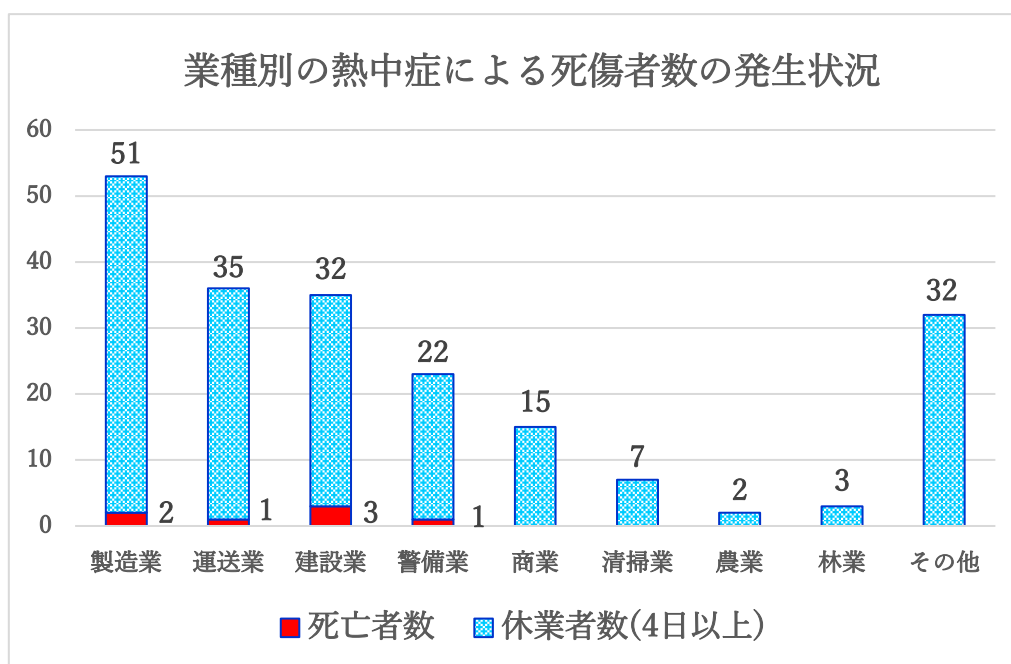
平成 26 年～令和 6 年の業種別の熱中症による死傷者数をみると、製造業が最も多く、運送業、建設業と続いている。これらの 3 業種で全体の約 60%を占めているが、近年はその他の業種においても発生している。

令和 6 年は、運送業が最多で 7 人、その他が 5 人、商業が 3 人、製造業、建設業及び清掃業が各 2 人であった。死亡災害は建設業（土木工事業）で 1 人発生した。

➤ 熱中症による死傷者数の業種別の状況（人）

業 種	年	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	合 計
製 造 業		3 (0)	0 (0)	5 (0)	7 (0)	7 (0)	9 (1)	8 (1)	2 (0)	1 (0)	7 (0)	2 (0)	51 (2)
運 送 業		0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	8 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (1)	7 (0)	35 (1)
建 設 業		3 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (2)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (0)	2 (1)	32 (3)
警 備 業		0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	22 (1)
商 業		1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	15 (0)
清 掃 業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	7 (0)
農 業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)
林 業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)
そ の 他		1 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	7 (0)	4 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	1 (0)	5 (0)	32 (0)
合 計		8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	199 (7)

※（ ）は死亡者数で内数



3 月・時間帯別発生状況（平成 26 年～令和 6 年）

（1）月別発生状況

平成 26 年～令和 6 年の月別の熱中症による死傷者数をみると、全体の約 8 割以上が 7 月及び 8 月に発生しており、死亡災害も 7 月、8 月に集中している。

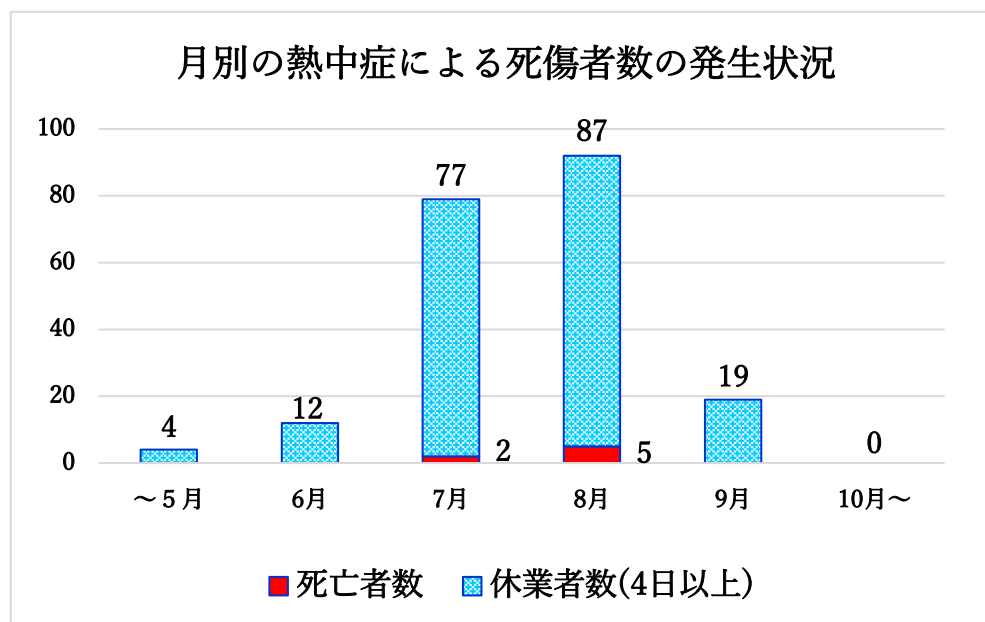
令和 6 年も同様に 7 月、8 月で多く発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の月別の状況

年 月別	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	合 計
～5 月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)
6 月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	12 (0)
7 月	5 (0)	1 (0)	10 (0)	7 (1)	18 (0)	9 (1)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	8 (0)	7 (0)	77 (2)
8 月	3 (0)	2 (1)	4 (0)	8 (1)	11 (0)	8 (0)	18 (1)	4 (0)	9 (0)	10 (1)	10 (1)	87 (5)
9 月	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	19 (0)
10 月 ～	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (0)	23 (0)	199 (7)

※ 「～5 月」は 1 月～5 月まで、「10 月～」は 10 月～12 月までの合計

※ () は死亡者数で内数



(2) 時間帯別発生状況（平成 26 年～令和 6 年）

平成 26 年～令和 6 年の時間帯別の熱中症による死傷者数をみると、14 時台をピークに 17 時台まで高止まりの状態が発生している。作業終了後の帰宅中又は帰宅後に体調が悪化し、夜間病院へ搬送されるケースも散見される。

また、～9 時台での発生も多く、日常の健康管理（睡眠不足、体調不良、前日の飲酒等、朝食の未摂取等）も重要となってくる。

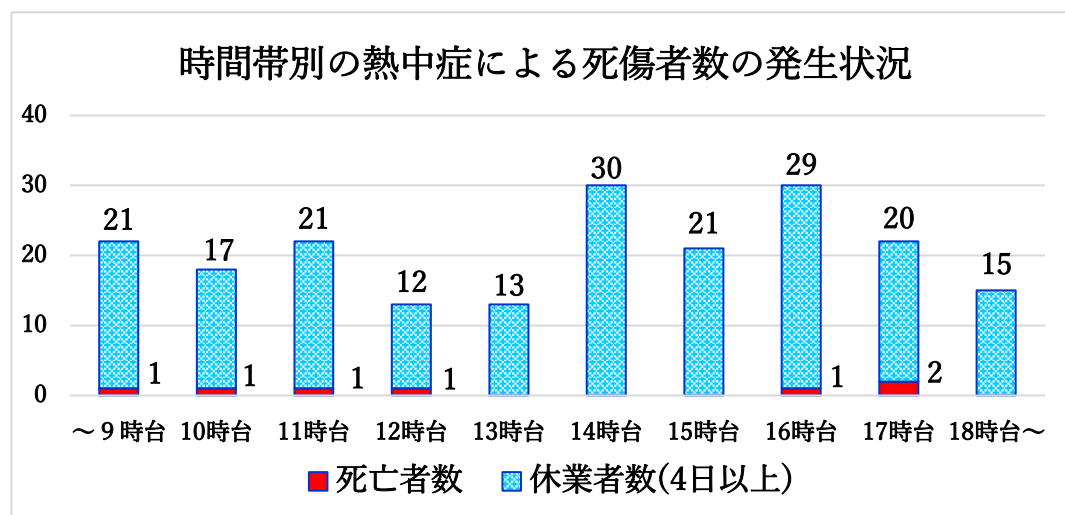
令和 6 年は、～9 時台の作業開始直後、13～17 時台（午後）で多く発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の時間帯別の状況

年 時間帯別	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	合 計
～9 時台	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (1)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	21 (1)
10 時台	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	17 (1)
11 時台	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (1)	3 (0)	21 (1)
12 時台	1 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	12 (1)
13 時台	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)
14 時台	1 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	7 (0)	5 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	30 (0)
15 時台	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	21 (0)
16 時台	1 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	3 (0)	3 (1)	29 (1)
17 時台	0 (0)	0 (0)	2 (0)	4 (2)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	20 (2)
18 時台～	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	15 (0)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	199 (7)

※ 「～9 時台」は 0 時から 9 時台まで、「18 時台～」は 18 時から 23 時台までの合計。

※ () は死亡者数で内数



4 経験年数別発生状況（平成 26 年～令和 6 年）

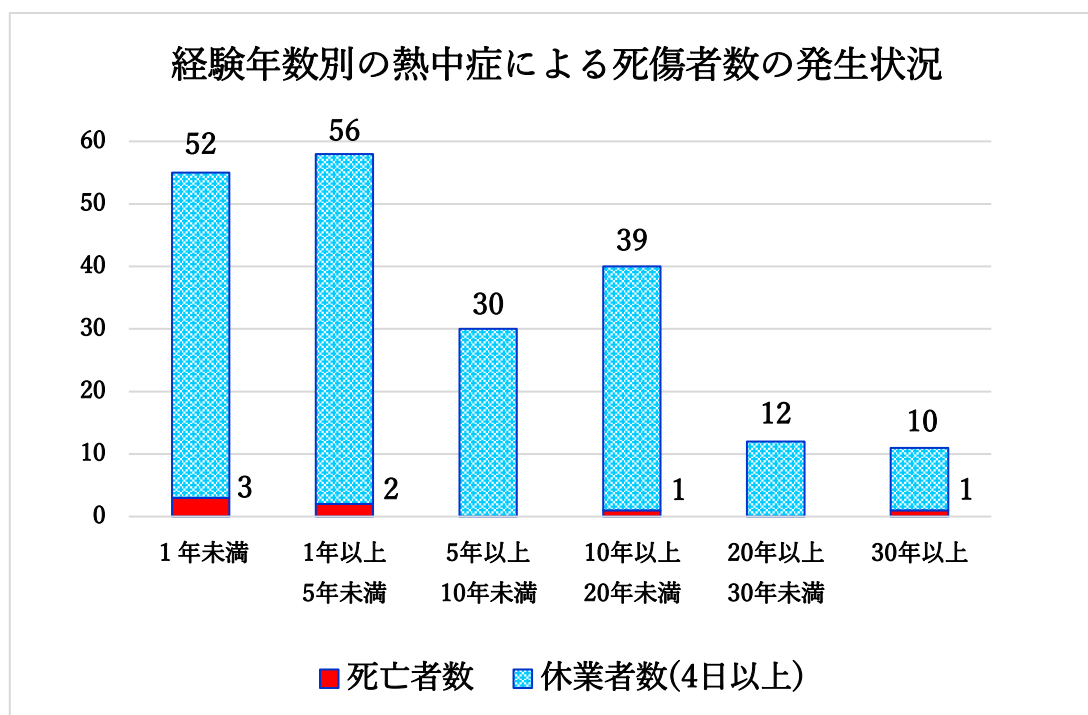
平成 26 年～令和 6 年の経験年数別の死傷者数をみると、1 年未満及び 1 年以上 5 年未満で多く発生している。近年は経験年数を問わず発生しているため、熱中症予防の教育・研修等の実施が重要である。

令和 6 年は、1 年以上 5 年未満が最多となっている。

▶ 熱中症による死傷者数の経験年数別の状況（人）

年 時間帯別	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	合 計
1 年 未 満	2 (0)	2 (1)	4 (0)	5 (1)	12 (0)	7 (0)	3 (0)	3 (0)	5 (0)	6 (1)	3 (0)	52 (3)
1 年 以 上 5 年 未 満	1 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (1)	10 (0)	7 (0)	7 (0)	6 (0)	5 (0)	5 (0)	7 (1)	56 (2)
5 年 以 上 10 年 未 満	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (0)	6 (0)	1 (0)	6 (0)	0 (0)	3 (0)	30 (0)
10 年 以 上 20 年 未 満	0 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (0)	4 (0)	3 (0)	7 (1)	1 (0)	2 (0)	6 (0)	5 (0)	39 (1)
20 年 以 上 30 年 未 満	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	12 (0)
30 年 以 上	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	10 (1)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	199 (7)

※（ ）は死亡者数で内数



5 年齢別発生状況（平成26年～令和6年）

平成26年～令和6年の年齢別の熱中症による死傷者数をみると、すべての年代において熱中症が発生しているが、最多は50代、次いで40代での発生が多いが、近年は年齢を問わず発生しているため、全ての年齢層への対応が求められる。

さらに、60代以上の就業者数も増加していることから、高年齢労働者への配慮も求められる。

▶ 熱中症による死傷者数の年齢別の状況（人）

年 年代別	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	合計
10代	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
20代	1 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (0)	38 (1)
30代	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	21 (0)
40代	3 (0)	0 (0)	2 (0)	9 (0)	5 (0)	7 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	2 (1)	5 (0)	43 (1)
50代	1 (0)	1 (1)	3 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	7 (0)	1 (0)	3 (0)	7 (0)	6 (1)	45 (3)
60代	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (1)	3 (0)	7 (0)	5 (0)	5 (0)	37 (1)
70代以上	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	14 (1)
合 計	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	199 (7)

※（ ）は死亡者数で内数

